

SPONSORED by



## INTERVIEW

# DAISANSHOKO meets ATSUYA HIROHATA

(廣畑 敦也 / 千葉ロッテマリーンズ)

### 地域スポーツと繋がり野球教室を開催！

1950(昭和25)年創業、岡山県から千葉、宮崎と国内3拠点を置き、  
長きにわたり国内の木材供給に携わってきた大三商行。  
未来を見据えた人材育成や自然環境保全を掲げ、地域を代表する企業として躍進してきた。  
そしていま、スポーツを通じて企業と地域、そして人を繋ぐ新しい文化創造へ挑戦を始める。

Photography: Kentaro Murakami  
Edit: Sayaka Harada, Writer: Naoko Irie



#### 「地」のつながりに 「縁」がひろがる。

— 廣畑選手を応援するようになったきっかけを教えてください。  
大三商行代表取締役社長 石川和重(以下石川) 入団された当初から、絶対応援したいと思っていました。当社の創業

#### 勝負どころで響く、地元岡山での原体験

地である玉野光南高校出身で、なわかつ拠点がある千葉ロッテマリーンズの選手です。玉野光南高校 野田昌平監督にお願してロッテ球団の窓口の方をご紹介いただきました。スポンサーという立場でのつながりが、今回の野球教室開催として実現にも繋がりました。貴重なオフシーズンの時間を割いていただき、廣畑選手にはとても感謝しています。千葉ロッテマリーンズ 廣畑敦也投手(以

下 廣畑) 正直なところ、ずっと野球が頭になかったため地元企業のことはいままで詳しくなく、初めて知った企業さんです。今回こうやって呼んでいただけ、すごくありがたいなと感謝しています。小学生対象ということで、気負いなく楽しくできました。岡山弁丸出しで(笑)。石川) 親近感を感じられて、参加者の

小中学生も楽しそうでしたね。廣畑) それはよかったです。野球を始めたのは香川でしたが、高校と社会人と野球人生の大半を岡山で過ごしているの、ルールとも言える場所に関わることで、できてとても嬉しいですね。今回のイベントを企画した岡山ドリードクラブ代表の藤原さんも中学生時代からお世話になった方。田野監督も父の同級生で、野球への思いが強く、熱心に指導してくだ

さいました。今でも遠慮なく「今日あらかたな」と電話があります(笑)。野球人生の大事な時期をアツイ方々に守っていただけたことは、プロ野球人生においても勝負の「こそ」という瞬間に大きな支えとなっています。試合以外の部分でも、人間形成に大きな影響を与えてもらいました。社会人野球の時代には、仕事でも誰よりもがんばることを心掛けた。そして挨拶や礼儀を大切にしました。野球人である前に企業人として人間力を高めることの大切さを学びました。今の自分の礎になっています。

石川) 気候的な違いはコンディションに関係しますか?  
廣畑) かなりあると思いますよ。千葉は太平洋側に位置しているせいか、風や肌を感じる空気が違います。「やっぱり岡山の天気は穏やかだなあ」とつくづく思いました。空気感には自分に合っているのではないかと、帰ってくると実感しますね。



キャッチボールやストレッチの際は子どもたち一人ひとりに声を掛けてまわる廣畑選手。投球披露の際は、大きな歓声が沸き起こった。本物のプロ野球選手に直接指導してもらえるという絶好の機会に、子どもたちは終始イキイキと練習に参加していた。

# DAISANSHOKO Talk with Atsuya Hirohata

(千葉ロッテマリーンズ)

PLOFILE

廣畑 敦也(ひろはた あつや) / 1997年12月岡山県倉敷市生まれ。千葉ロッテマリーンズ所属のプロ野球選手(投手)、背番号30。玉野光南高校から帝京大学を経て三菱自動車倉敷オーシャンズに所属、2021年ドラフト3位で入団。多彩な変化球を操り、主に救援投手として活躍中。2023年までの2年間通算での登板数38試合、1勝2敗2ホールド、防御率5.10。趣味はコーヒーとギター弾き語り。



参加者全員でのアップからはじまり、キャッチボールやプロ投手の投球を実際に見られる機会も。子どもたちにとってかけがえのない時間が見つかった。



「もっと野球をやりたい」を叶えるには環境整備が急務。地域と企業、そしてアスリートが手を携えることが、野球の未来をつくっていく。

## 岡山出身のアスリートが地域の原動力になれる。

——岡山の野球を取り巻く環境についてどう思われますか。

石川 硬式野球ができる《場所》が激減していると感じています。広大なスペース確保や防護ネットの必要性も要因となつていますが、これが野球人口減少加速化を招かないようにしなければいけないと思います。廣畑選手は中学時代は学校の野球部でしたが、生徒数が少ない地域では1つの中学校だけではチームが組めず、複数校の混成チームを編成しないと試合が出来ない状況です。また、指導してくれる先生も業務が多忙で、部活動の指導も大変です。野球を楽しむ場所の環境整備と、企業や地域ボランティアが学校と連携して指導体制を再興していくことが大切だと思います。

廣畑 「もっと野球をやりたい」と思ったとき、環境は大きな問題となるでしょうね。建物も増えているし、キャッチボールすら禁止されている場所も多い。僕が子どもの頃からすでに野球ができる場所は限りがあつたように思います。どうにかしたいと思つても、個人レベルではできないことが多い。個人レベルではできないことが多く、ジレンマを感じています。地域や企業が立ち上がり、個人が支えていく体制があればいいのではないのでしょうか。大三商行さんみたいに手を挙げてくだされば僕たちも手伝えることができます。呼ばれば協力したいと考

えているアスリートは多いと思います。僕は地域に育てていただいた恩もあるし、出身地の皆さんから応援もいただけている。地域とのつながりはとても大切だと思つています。今日、こうした機会をつくっていただけたことに感謝すると同時に、これからも何らかの形で地域スポーツを盛り上げる手助けをしていきたいと思つています。

——岡山ファンの皆さんにメッセージをお願いします。

廣畑 僕自身、本当に岡山の熱い野球ファンに支えていただきここまでがんばつてこれたと思つています。地域問題も野球人口の問題もありますが、これから岡山出身の選手がどんどん活躍することで、野球人気も高まっていくかもしれませぬ。ドジャース山本由伸という、岡山出身のメジャーリーガーが誕生しましたしね。僕はあそこまで到達できるかはわかりませんが、活躍するアスリートが増えていくことは、地域が元気になる原動力だと思つています。僕も、これからも地域を元気にできる存在としてあり続けたいと思つています。そのために今年の目標としては、まずはリーグ優勝に貢献すること。歌つて踊れる野球選手…は、ひとまず置いて(笑)、信頼される投手としての地位を築くことが目標です。石川 ご結婚されたし、今年ぜひ優勝、そして日本一になってください。応援しています。

廣畑 心機二転がんばります！

## COMPANY DATA

### 期待以上を叶える挑戦。木材の可能性。その先へ

1950年の創業から70余年。山林経営からスタートした大三商行は、「木材のプロ」として時代と共にしなやかに業容を変化させながら、今日まで着実に成長を遂げてきた。創業の地である岡山をはじめ、関東一円への供給拠点となる千葉、そしてスギ素材生産量日本一である宮崎の3拠点を構え、国内のニーズをカバーしてきた。さらに木材調達や製造、構造計画から機械加工、建設工事まで、木造建築をトータルでサポートできることを強みとしている。

「商いと、人と向き合うことに本質がある」。事業の核には常に《木》があり、さらに《木》を通して《人》の繋がりを紡いできた。誰よりも真面目に、どこよりも丁寧に。全員がプロとしての矜持を持って眼前の課題に立ち向かう。



中大規模建築の木造化に日々挑戦しています



HP



Youtube



Instagram

本社  
岡山県岡山市北区下中野 708-111  
tel.086-246-5241

岡山事業部  
岡山県玉野市田井 3-32-1  
tel.0863-31-3151

宮崎サンテック事業部  
宮崎県日向市日知屋耳川 17062-2  
tel.0982-53-8568

千葉支店  
千葉県市原市八幡北町 2-11-1  
tel.0436-41-0355



インタビューの全編はコチラ